

八乙女

編集 南山見公民館
発行

平成元年10月25日発行

No. 36

富山県東砺波郡井波町川原崎
TEL (0763) 82-5176



鬼灯を友に分ちて懐しむ

前川 恵子

交通安全について

山崎 乙次郎

最近の交通事故は、誠に憂慮すべき事態であります。新聞、テレビで報道されているように、日に日に悪化し、県下ですでに一〇〇名の死者を出すに至りました。一瞬にして尊い命を失い、重傷を負う被害者は言うに及ばず、加害者にとっても実にみじめな一生となり、その家庭生活を不幸のどん底に追いやる悲惨なことになりました。

こうした交通事故をなくしようと、過日、井波警察署区域交通安全協会では婦人部を結成し、「交通安全は家庭から」をモットーに活躍することになりました。家庭愛和を基として「行ってらっしゃい、気をつけてね」の一言こそ大切だと感じ、「思いやり」の心を生かした交通安全を推進し、明るい豊かな暮らしを守るように願いたいものです。

「おじいちゃん」「おばあちゃん」には、まず「ピカピカシール」。また自転車にも忘れず貼ってあげることから始めたいものです。

日没が早くなり、危険も増えます。是非実行され、交通安全運動を活発に推進し、その普及に努め明るく楽しい家庭、地区にしたいものです。婦人部会の方々を中心に、また家庭において交通安全について語り、事故絶滅を期したいものです。

平成元年に掲げられたスローガンは、

「ゆとりこそ 無事故につながる 道しるべ」
「安全は ゆずるやさしさ まつゆとり」

こうしたゆとりこそ大切で、急がずマナーを守って運転したいものです。

八乙女フェスティバル

朝 倉 一 夫

お盆の十五日、恒例の屋のバレエボール大会が盛會裡に終了し、運動場や公民館の周囲に盆踊りの提灯や、児童たちが腕をふるって描いた美しい絵行灯一五〇本に漸く灯が入る頃から、生憎の雨となり、せっかくの絵行灯も雨にかすんでぼんやり見えた。

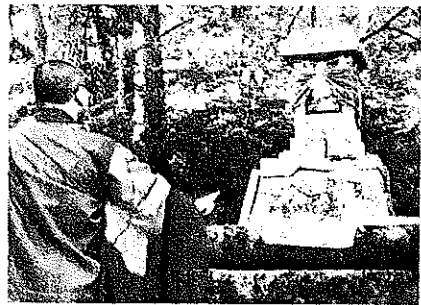
夜、体育館では、青年団・婦人会や各クラブの盆踊り、ウルトラライズ、成年部・タンポポ学級のピール・



ラムネの早のみ競争・輪投げ、壮年の宝探し等がにぎやかに行われ、各バザーも盛況で、ジョッキー、コンニャクが早々と売り切れた様子だった。また、参加賞に出した公民館の参加記念ウチワに人気が集まった。雨にもめげず多数ご参会いただいた町民の皆さん、種々のフェスティバルの事前準備にご努力いただいた各グループの皆さん、ふるさとの納涼祭がさらに楽しく続くことを請い願うものである。

不吹堂と井波風

山 本 太 作



八乙女山に連なる峰々から吹きおろす強い南風、この風を井波風（井波だけの「私風」と呼んでいる、地域の人々の伝説として八乙女の風穴、風神堂がある。

今でも伝承されているものに大字大谷字焼尾地内に石造の不吹堂があり、毎年六月二八日に井波町常永寺（曹洞宗）の寺僧によつて祭礼が行われている。古くから八乙女山の山麓に住む住民は、度々の大風によつて作物や建物に多大の被害をうけたのである。この大風を鎮める偉大な力「風の神」を祭り多くの人々が大風を鎮める信仰で現在の堂を建立されたものと思われる。（創立の年代や創設者不明である）

この不吹堂が八乙女山の山麓の村々の共同の祭りという形で行われてお

り勸進の範囲は、清玄寺・今里・五領・連代寺・戸板・川原崎・谷・以上七村の外・東城寺・沖・院瀬見・志々寺・山見・池田（井口村）が共同で祭事を行っている。

この祭礼の費用の負担割合を七村九永会の記録によると次のとおり昔の各村の草高（一反三百六十歩につき一石五斗）の基準で計算されつぎのようになっている。

清玄寺村一五二石六斗・今里村二六八石・五領村七三石・連代寺二三七石・戸板村三一四石・川原崎村三〇八石・谷村三一石・東城寺村三一四石・沖村六七〇石・院瀬見村一〇八五石・志観寺村二二二石・山見村五二八石・池田村五〇四石となつておりこれは、加賀藩当時（天保一〇年―一八三九年）の検地されたものであつてこの石数を基本にしてその年の祭費を接分して各村から徴収している。

井波風は、全く局地的で風速数十米の強風が続いても氣象台は全く予報もしてくれない。この地帯に生活するものにとつて残念でならない。この特殊な井波風を氣象学的に調査研究して説明するために、行政による公的な観測を強く望むものである。

寿賞のみなさん紹介

米 寿 (88歳)	傘 寿 (80歳)	朝 倉 ち ヨ	喜 寿 (77歳)	岩 崎 彌 作
高 橋 ユ キ	田 村 久 孝	福 村 き よ	田 村 奈 を	松 井 作 太 郎
久 恵 清 藏	田 中 孝 一	前 田 み よ	谷 川 外 永	前 川 み つ い
前 川 惣 一	青 山 豊 作	倉 嶋 壽 美 子	武 田 は 奈 枝	山 崎 く み
池 田 源 郎	山 本 有 藏	沢 田 き く	滝 田 一 枝	山 口 美 雄
4名	吉 田 つ や を	高 嶋 興 之	前 川 美 登 里	横 江 外 夫
	林 を る	12名	山 本 幸 吉	12名

種目	組	1組	2組	3組	4組	5組	6組
		赤	白	水	ピンク	黄	緑
満水レース		10	8	4	2	12	6
ボールけりレース		6	5	1	3	4	2
ボールはこびレース		2	1	6	4	5	3
玉入れ		3	6	1	4	5	2
タイヤころがしレース		6	3	4	1	5	2
ゲートボールレース		1	4	5	2	6	3
百足レース		4	5	2	3	1	6
障害物レース		1	2	6	3	5	4
綱引き		4	8	12	4	10	4
年代別リレー		6	4	2	10	12	8
得点合計		43	46	43	36	65	40
総合順位		4	2	3	6	1	5

成績は次の通りです。
 すっきりしない天候続きで心配しておりますが、久し振りの青空のもとで、皆様方の積極的なご参加を待まして、地区体育祭が和気あいあいの競技で、熱戦が繰り広げられ、応援の声も一段と高まり、楽しいひとときでした。

第12回 南山見体育祭 (10月1日)



第十八回井波町体育祭 10/8

雨のため中止になり、誠に残念なことでありました。役員の方、各町内会長、種目別責任者並びに選手の方々には、お忙しい中、諸準備にご協力下さいましたことを厚く御礼申し上げます。(大会実行委員)

◆第五回フレッシュテニス大会 (7/2)

- ・40才未満の部
- 一位 狩野和浩・狩野陽子チーム
- 二位 田中一昭・田中照美チーム
- 三位 山本昌平・山本智子チーム
- ・40才以上の部
- 一位 井上辰夫・井上智子チーム
- 二位 横江明雄・直江喜美代チーム
- 三位 岩崎 寛・岩崎貴美子チーム

◆第九回地区バレーボール大会 (8/15)

- 優勝 戸板チーム
- 次勝 里領チーム
- 参勝 沖Aチーム

◆ビーチバレーボール各方面で活躍

- 二月 町長杯
- 南山見全クラス優勝
- 六月 郡大会出場
- 優勝 男子18才以上
- 三位 女子18才以上
- 女子45才以上も出場

六月 町大会

- 優勝 男子18才以上
- 優勝 男子35才以上
- 優勝 男子45才以上
- 優勝 男子18才以上
- 優勝 女子18才以上
- 優勝 女子35才以上
- 一月 県大会に出場予定
- 優勝 四人計 一六〇才以上
- 郡大会に出場

◆フレッシュテニス大会

- 優勝 男子 田中・山本組
- 優勝 女子 長田・高橋組

◆第四回富山県女子ゲートボール砺波ブロック大会優勝 (8/12)

県体出場予定

◆第二〇回井波町児童クラブ野球大会 (7/23)

- 優勝 南山見児童クラブ(男子)

◆第八回井波町児童クラブ女子ソフトボール大会 (7/23)

- 優勝 南山見児童クラブ(女子)

◆両砺波ソフトボール大会 (8/7・城端町中)

- 優勝 南山見児童クラブ

◆呉西地区ソフトボール大会 (8/12・大島町)

- 優勝 南山見児童クラブ

◆富山県第一〇回女子ソフトボール大会 (8/24・富山県五福公園軟式野球場)

- 参勝 南山見児童クラブ

ソフトボール

山本 彰

今年の子供達は、私の目から見ると、本当におとなしい性格の子供達の集まりでした。そんな子供達に、ソフトボールの楽しさ、そして、きびしさの中からチームワークの大切さを教え、一緒にプレーをしていかなければならないことは、ハッキリ言って非常に難しかったし、勉強になりました。



ともかく子供達にとって、多難の道のりを乗り越えて、たどりついた終点が、ご存知の方も多いと思いますが、県大会における三位入賞でした。ここまでに至るエピソードを一つ紹介し、子供達の可能性の大きさを、再確認して頂けたらと思います。

練習当初、キャッチボールの全然出来ない子供達が、町そして郡の予選を、幸運の女神と一緒に勝ち進み、呉西地区大会一回戦の事です。負けて四回裏もツーアウト、バッターはセカンドゴロで万事休すと思いきや、残り時間一分のため五回へ突入、そしてその裏見事なサヨナラ勝となった時の子供達の喜びを見て一緒にやってよかったなあ……。



子供達の人生の想い出になればと思いつつ、皆様方のお世話に感謝し御礼申し上げます。

小さな集団

直江 祐二

川原崎青年会は、青年団を終わつた二十五才以上四十二才までという会則で、二十年前に発足した。

発足の動機が一人一人の発言より、集団の発言力を発揮させるため、会が意見を集約し、町議員や役場当局に話をしようというのが、そのはじまりであった。

発足して数年後、現在の保育所が新設され、青年会として記念樹を寄贈しようということで、保育所前庭に三本の松を会員総出で植樹した。

現在、当時の会員がそのままそっくり移動したような川原崎セブン会をつくり、今度は会則なし、会長なしというのびのびした会で、総会には夫婦で参加し、「皆出席」という

総会が発足以来五年も続いている。この集団にも確実に高齢化がやってくる。集団がどのように変化していくか私の楽しい希望の一つです。

編集後記

測候所ができてこのかたないといふ九月の長雨。十月になっても今一つ。時折のぞく青空が待ち遠しい。盆踊り、バレーボールも組み入れたの八乙女フェスティバル、地区体育祭。各部会の活動も活発に進んでいる。十一月の文化祭も成功させよう。この小さなコミュニティの和が、村づくり、町づくり、国際化などに通ずる原点であるかも。

今回は古くその歴史もはっきりしない「不吹堂」を取り上げました。これからも伝承等も取り上げたいと思います。お知らせ下さい。すすきの穂も白くふくらんできました。

赤とんぼとまればいよいよ四辺澄み

星野立子

公民館夜間管理者の異動

山本順作さんが、このたび退任されることになりました。就任時のご希望で、わずかの期間ではありましたが、誠に有り難うございました。

後任として、十月一日より、篠原悦雄さんにお世話をしていただくことになりました。